

助成財団センターとは

助成財団センターは、1985年に設立されました。その後、民間の助成財団や経済界の出捐により、1988年に財団法人化され、2009年に現在の公益財団法人に移行しました。

助成・表彰・奨学等の事業を行う助成財団の情報センターとして、その活動や運営をサポートするとともに、助成を希望される方々と助成財団の橋渡しをおこなっています。また、助成財団の役割について広く社会に発信して社会的理解を深め、民間公益活動の発展・向上に寄与することをめざしています。



代表理事・理事長
出口 正之



代表理事・専務理事
花崎 和彦

公益財団法人 助成財団センター The Japan Foundation Center

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-26-9 ビリーヴ新宿4F
TEL:03-3350-1857 / FAX:03-3350-1858 / WEB: <https://www.jfc.or.jp/>
メールアドレス: office@jfc.or.jp



公益財団法人 助成財団センター
「2023年度 助成財団フォーラム」

今こそ民間助成を考える

～助成財団を取り巻く環境の大きな変化～

フォーラムの目的

地球温暖化と自然災害の頻発、ウィルス感染症やウクライナ侵攻の長期化、人工知能(AI)の急速な進化の影響等々、私たちを取り巻く国内外の環境は日々不安定さを増しています。このような状況にあって、誰一人取り残さない社会の実現に向けて、私たちは、今一度“Think Globally, Act Locally”の視点で社会に向き合う姿勢が求められていると考えます。そして、そのためのチャレンジングな取り組み(研究や活動)を率先して支え、応援していく主体こそが助成財団であり、これによる助成事業であると位置づけられるでしょう。

翻って、現在の日本の助成財団を取り巻く状況は、政府による競争的資金の拡大、新たな奨学支援制度や休眠預金制度の動向、企業の社会貢献活動等の定着と進展、クラウドファンディングや遺贈にみられる寄付手段の多様化、コミュニティファンドの台頭など、急速に、かつ激しく変化しています。そこで、今年の助成財団フォーラムは、これからの助成財団や助成事業の在り方を国際社会の現状や動向も念頭に、大きな視野からじっくりと考える機会にしたいと考えます。このフォーラムを契機に、それぞれの助成財団が、社会状況を先取りするためのより積極的な助成事業に取り組まれることを期待しています。



会場案内図



住所:東京都港区西新橋1-6-15 NS虎ノ門ビル11F(日本酒造虎ノ門ビル)



▲NS虎ノ門ビル
(日本酒造虎ノ門ビル) 3F・11F

- 東京メトロ銀座線
「虎ノ門駅」より徒歩3分
- 都営地下鉄三田線
「内幸町駅」より徒歩3分

開催概要・参加申し込み

- 開催日時** 2023年11月17日(金) 13:00 ~ 17:05
- 開催方法** ハイブリット開催(会場 および Zoomウェビナー)
- 定員** 200名(但し、会場参加につきましては先着80名とさせていただきます。)
- 会場** AP虎ノ門 Room C・D
住所:東京都港区西新橋1-6-15 NS虎ノ門ビル11F(日本酒造虎ノ門ビル)
終了後、17:30より懇親会を開催いたします。(希望者のみ)
(懇親会のみのご参加も可能です)会場:AP虎ノ門 Room B
- 参加費**
 - フォーラム 団体単位 (会員団体および個人参加) 6,600円(税込)
(会員以外の団体) 9,900円(税込)
団体単位としていただきますので、事業担当の皆さまも奮ってご参加ください。
 - 懇親会(希望者のみ有料) 個人単位会費となります 別途6,000円(税込) / 人

参加申し込みはこちら
<https://pro.form-mailer.jp/fms/86a0f1b6196538>



プログラム

Program

【第一部】
講演
13:30

総合司会： 公益財団法人 助成財団センター
理事・事務局長 両角 明子

13:00 【開会挨拶】
公益財団法人 助成財団センター 理事長 出口 正之



13:10 【来賓ご挨拶】
「民間公益の活性化に向けた期待
～柔軟・迅速な事業展開のために～」
内閣府公益認定等委員会事務局
局長 北川 修様

一部のねらい

助成財団として考えるべきこと、外部からNPOとしての視点で助成財団が何をなすべきか、今改めて見つめなおしてみます。



講演 I

「民間助成を豊かにするための知と力と技」
法政大学名誉教授 公益財団法人 助成財団センター 会長 山岡 義典

東京大学大学院卒業後、1969年に(株)都市計画設計研究所に入所、1977年財団法人トヨタ財団に勤務、助成財団資料センター(当時)設立に尽力した。1992年同財団退職後、フリーのプランニングコンサルタントを経て、1996年日本NPOセンターを設立、常務理事・事務局長に就任、2008年同センター代表理事、2012年より顧問、その間2001年法政大学教授(2012年退職)、2002年特定非営利活動法人 市民社会創造ファンドを設立、同運営委員長に就任、2014年公益財団法人助成財団センター理事長に就任、2022年6月に理事長を退任し、会長に就任。

講演 II

「助成財団セクターの置かれている状況と
価値向上に必要な方向性」
特定非営利活動法人 協力アカデミー 代表 松原 明さん



特定非営利活動法人協力アカデミー代表。1960年大阪府豊中市生まれ。神戸大学文学部哲学科社会学専攻卒。1994年、NPO立法法を推進するシーズ・市民活動を支える制度をつくる会を創設。NPO法、認定NPO法人制度、NPO法人会計基準、寄付税制拡充などの制度創設・改正を推進。また、多くの自治体のNPOとの協働制度創設にも携わる。NPO支援財団研究会、日本ファンドレイジング協会、東日本大震災支援全国ネットワークなどの創設にも携わった。現在、協力のテクノロジーの開発普及を行う「協力アカデミー」を主宰している。



14:40
10分休憩
コーヒーブレイク

【第二部】
事例報告
14:50

二部のねらい

チャレンジングな取り組みを率先して支え、応援していく主体こそが助成財団であり、これによる助成事業である」というイメージに即した4つのケース(研究や活動、奨学・教育、応募者目線)をご紹介します。



コーディネーター：
公益財団法人 笹川平和財団
常務理事 茶野 順子さん

1 1
社員が支える財団運営
～小倉昌男が託したもの
公益財団法人 ヤマト福祉財団
常務理事 井上 貴博さん

プロフィール

1996年ヤマト運輸株式会社入社。同社およびグループ企業の人事戦略部門、安全・コンプライアンス部門などを経て、2023年2月より公益財団法人ヤマト福祉財団に勤務、6月より常務理事

メッセージ

環境が変化する中、助成財団には、助成先の声を傾聴し、新たなチャレンジを続けることが求められています。本日のフォーラムを通じ、一步前進するためのヒントを見つけたいと思います。

2 2
社会が必要とする研究、研究者のサポートへの新たな取り組み
～ハイリスク新興感染症研究助成、ビジョナリーリサーチ助成、中学校・高等学校理科教育振興助成
公益財団法人 武田科学振興財団
常務理事 酒井 清彦さん

武田薬品工業株式会社にて経理部門、医薬事業総括部門、海外駐在を経て2013年から公益財団法人 武田科学振興財団 事務長、2021年より常務理事に就任

助成財団を取り巻く環境の変化を見極め、求められる新規事業の開拓のヒントとなればと思います。

3 3
人材育成に向けた奨学事業と助成事業の継続・拡大
～「つながり、学び合う」をテーマとした活動
公益財団法人 電通育英会
専務理事 有井 和久さん

株式会社電通にてマーケティング部門、デジタル・ビジネス部門、データ・テクノロジー部門を経て、2019年から公益財団法人電通育英会専務理事に就任

社会環境の変化や様々なステークホルダーの要請に応え、どのように社会的価値を創造し続けるか、助成財団同士の交流の中から学び、自らの活動の現在と未来を考えて参りたいと思います。

4 4
応募者の経験を活かした助成事業
～子どもの貧困に特化した助成事業
認定特定非営利活動法人キッズドア
理事長 渡辺 由美子さん

1989年株式会社西武百貨店入社。2007年困窮家庭の子どもの学習を支援する任意団体キッズドアプロジェクトを設立。2009年特定非営利活動法人キッズドア理事長就任

社会的価値創造に向けて民間の一層の連携が必要です。このフォーラムを通じて、多くの皆様と繋がれることを願っています。

【第三部】
質疑応答 &
意見交換会
16:00

進行： 立教大学大学院
21世紀社会デザイン研究科 客員教授
公益財団法人 助成財団センター 理事 渡辺 元



参加者： 第一部、第二部の登壇者

17:00 【フォーラム総括・閉会挨拶】 公益財団法人 助成財団センター 専務理事 花崎 和彦
17:05 【閉 会】

懇親会のお知らせ

17:30からフォーラム会場と同じ「A P 虎ノ門 ROOM B (お部屋は異なります)」にて3年ぶりに実施いたします。懇親会のみのご参加も可能です。対面にて皆様との交流ができることを楽しみにしています、是非奮ってご参加ください。お申込みは、フォーラムと同じフォームよりお願いいたします。

